

ランクサイズルール

- 都市人口は、以下のパレート分布に従うことが知られている。
- $\text{Ln}(\text{都市人口のランク}) = \text{定数} - \alpha \text{Ln}(\text{都市人口})$
- 特に α が 1 の場合を、ランクサイズルールと呼び、人口とランクを乗じたものが一定の値を示すこと意味している。
- このルールは、多くの国で当てはまるとされている (Rosen, K. and M. Resnick (1980))
- 1965年においては、ほぼが成立している。しかし、時間の経過とともに α の値が低下しており、特定の都市への集中度が強まっている。

ランクサイズルールの 推定結果

	1965年		1995年		2015年		2045年(推定値)	
	係数	標準偏差	係数	標準偏差	係数	標準偏差	係数	標準偏差
都市人口	-1.0225	0.0273	-0.9584	0.0214	-0.9179	0.0196	-0.8391	0.0182
定数項	16.8068	0.3529	16.1687	0.2802	15.6090	0.2562	14.3385	0.2331
データ数	100		100		100		100	
重決定係数	0.9345		0.9535		0.9573		0.9579	

(注) *** は 1%水準で有意。